

第 1 回 広域機関システム中長期計画検討会 議事概要

1. 日 時

2019年6月4日(火) 14:00 ~ 16:00

2. 場 所

電力広域的運営推進機関(新豊洲)会議室B・C

3. 出席者 ※敬称略

【座長】

江崎 浩 (東京大学大学院 情報理工学系研究科 教授)

【委員】

加藤 浩二 (東京電力パワーグリッド株式会社 系統運用部 広域給電グループマネージャー)

佐藤 幸生 (中部電力株式会社 電力ネットワークカンパニー 系統運用部 給電計画グループ 課長)

石井 幹也 (電力広域的運営推進機関 運用部長)

【オブザーバー】

藪野 成人 (電気事業連合会 電力技術部 副部長)

鍋島 晃 (電気事業連合会 企画部 副部長)

佐々木 淳 (株式会社日立製作所 社会システム事業部 広域系統ソリューション部 部長)

山川 伸一郎 (日本アイ・ビー・エム株式会社 戦略コンサルティング部 部長)

宮里 孝則 (電力・ガス取引監視等委員会事務局 ネットワーク事業監視課 課長補佐)

4. 議題

(1) 広域機関システムの中長期計画に関する検討会について

(2) 広域機関システムの開発経緯について

(3) 2019年度予算計画の概要について

(4) 2020年度以降のシステム開発計画について

(5) 今後の進め方について

5. 添付資料

資料 1 : 議事次第

資料 2 : 委員名簿

資料 3 : 広域機関システムの中長期計画に関する検討会の設置について

資料 4 : 広域機関システム開発について

資料 5 : 2019年度広域機関システム予算計画の概要について

資料 6 : 2020年度以降の広域機関システム開発計画について

資料 7 : 広域機関システムの中長期計画に関する検討会の今後の進め方について

6. 議事の経過

(1) はじめに

座長から、初期開発の経験を活かしつつ、我が国のためにしっかりと計画をもってシステム開発を進めていただきたい旨の挨拶があった。

(2) 広域機関システムの中長期計画に関する検討会について

事務局より資料 3 を用いて説明を行った。資料 3 については、本検討会の目的と主旨が記載されているため、本機関ウェブサイトにて公表したいとの提案があった。座長、及び委員から、広域機関システムの定義と検討の対象範囲を追記した上で公表するよう指摘があった。

また、単純な費用削減の結果、品質が悪いシステムにならぬよう、開発費用に見合ったものになっているかどうかを精査することの必要性について意見があった。

(3) 広域機関システムの開発経緯について

事務局より資料 4 を用いて説明を行った。座長から、広域機関システムの開発経験を各事業者にもよく共有し、開発ハンダーの不利益にならない形で次のプロジェクトに上手く繋げて欲しいとの意見があった。また、委員からは、初期開発当時の状況からここまで正常化した点については評価できるし、知見を参考にしたいとの意見があった。

座長からは、広域機関システムのサイバーセキュリティ対策について、悪意を持った第三者によるフィジカルなセキュリティアタックも考慮した対策の必要性について指摘があった。

(4) 2019 年度予算計画の概要について

事務局より資料 5 を用いて説明を行った。オブザーバーから保守費用の削減についても検討して欲しい旨の意見があり、事務局からは今年度から機能改良による監視強化対策を実施しており、これにより、ランニングコストの削減を図る旨の回答があった。また、信頼性に影響することが無いよう、対策を進めて欲しいとの意見があった。

座長からは、一般送配電事業者と広域機関が協力して費用削減を目指すことは問題ないが、排他的なことが起こらないように注意するよう指摘があった。

(5) 2020 年度以降のシステム開発計画について

事務局より資料 6 を用いて説明を行った。委員から、イレギュラーな対応が入ってくる可能性があるが、単に工期を延ばすのではなく、検証時のチェック工程を効率化するなど工夫して進めていただきたいとの指摘があった。事務局からは、暫定的にシステム化しておいて、段階的に機能拡張をしていくなど、関係者を巻き込んで開発計画を検討したい旨の回答があった。

座長から、今後の需給調整市場システムは、関係者も多く、開発遅延も許されないので注意しながら進め、この場での議論の内容を各社の上席にも共有しておいて欲しい旨の意見があった。

(6) 今後の進め方について

事務局より資料 7 を用いて説明を行った。今後も議事概要については公表するが、検討会自体は非公開とし、配布資料も原則非公開とする旨の説明があった。次回検討会は 8 月下旬から 9 月

上旬とし、7 月末までの実績報告、及びこれを踏まえた来年度以降の予算一次集約について議論していく旨の説明があった。また、精度は高くないかもしれないが、経理や情報システムグループにも見通しを出してもらえるよう依頼し、少しでも早く特別会費の全体が見えるよう進めていく旨の説明もあった。

以 上